

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-107

学校名・団体名	熊本市立城東小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/jotoes/index.htm
コース	学校支援
活動・研究テーマ	子どもたちの元気を熊本の被災地に届けたい
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>4月に起こった地震によって学校は臨時休校となったが、児童は避難所の手伝いやボランティア活動など自主的・自発的に活動した。その姿は周囲の人を元気づけ、避難所や地域・家庭において大きな力となった。</p> <p>特に本校避難所で朝のラジオ体操の後に踊った「OLA！（歌：ゆず）」のダンスは、避難している人達に好評で、日を追うごとに多くの人がある輪に加わった。昨年度の運動会で低学年が踊ったこのダンスは、学校のいろいろな場面で取り上げられ、全校児童が踊りを覚えている。避難所での行動やダンスが周囲の人に喜ばれ、役に立つことができた経験は児童の自信となり、学校再開後も約2カ月、体育館の避難所が閉鎖されるまで、毎朝避難している人と児童のダンスは続いた。</p> <p>周囲を元気づける児童の姿は、復興・復旧の大きな推進力である。われわれ職員は児童の意欲を大切にし、その活動を支援したいと考えた。</p>	

1 「OLA」のダンスで元気を届けたい

(1) 絆の力で作り上げる運動会

5月に予定していた運動会は半年延期して10月に開催した。震災から6か月、児童はようやく日常を取り戻し、運動会に向けて気持ちを高めることができてようになっていた。児童会で設定した今年のテーマは「心をつなぐ絆の力で作り上げる運動会」。学級活動の時間等で震災を振り返り、児童はともに力を合せて乗り越えてきた「絆の力」を感じ取っていた。地域の方や本校に避難していた人を招く運動会では「感謝の気持ち」を届けさせたいと考えた。



(2) 元気を届けたい～ソーラン節

感謝の気持ちをどんな形で届けるのか。毎年運動会に来られる校区消防団の方から「毎年、みんなから元気をもらうために運動会に来ている。今年も楽しみです。」という話を聞いた4年生は、学級会の話合いで、運動会に来られる地域の方を元気づけることが感謝の気持ちにつながると考えた。そして、ソーラン節の演技の中でメッセージを込めた横断幕を掲げることを決めた。児童は「熊本城とともにがんばろう」「明るい笑顔で前へ進もう」という自分たちの思いを観覧されている人たちに届けることができた。



踊りと言葉で気持ちを届ける

(3) 熊本城に向かって響く和太鼓のリズム

紅白の応援団による演舞では、熊本城に向かってエールをおくり、熊本や城東校区への応援や感謝の気持ちを表現した。今年、「ちゅうでん教育振興助成事業」により購入した和太鼓のリズムが応援団の演舞を盛り上げた。太鼓をたたいた子どもは「(たたいていると)ぼくの横にみんなが立っているように感じました」と解団式で語り、太鼓のリズムでみんなの心が一つになったことを感じ取っていた。



自分たちのシンボル熊本城にエールをおくる

(4) 運動場の一体感を生み出す

この和太鼓によって全校ダンス「OLA!」もこれまで以上にぎやかにになり、児童だけでなく来賓・保護者をはじめ観覧している人も楽しく踊ることができた。その中には本校に避難していた人たちもおおられ、「久しぶりに子どもと一緒に踊るダンスでまた元気になりました。」と喜ばれていた。運動場全体が笑顔に一つまれ、しばらくは震災を忘れ楽しい時間を過ごすことができた。児童も、まわりへの感謝の気持ちをもって、力を合わせてがんばろうとする気持ちが多くの人に届いたことで、満足感を味わうことができた。

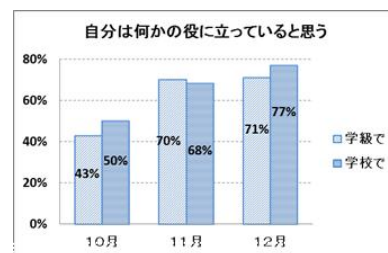


和太鼓に合わせて踊ったダンス

2 成果

(1) 自己有用感の高まり

震災によって不安で不自由な生活を強いられたが、その生活において児童は絆の力を感じ取り、感謝の気持ちを高めた。「もっと何かの役に立ちたい。」「児童が自主的に取り組める場を増やしたい。」児童と職員の願いが毎朝の全校ボランティア活動につながった。児童は落ち葉掃きや運動場の草取り、水やりなど今日しなければならないこと、自分がやりたいこと、自分ができることを探して活動した。ボランティアが終わると学年ごとに違った色のシールでイラストを完成させた。「1日1回青色のシールを貼ると『1つ自分は学校の役に立ったんだなあ』と思います。」「ボランティアでは、自分の学校を自分のように思えて、とてもきれいにしています。」と児童は喜びを感じながら活動した。アンケートでは約8割の児童が「役に立っている」と答えた。



アンケート結果 (児童)

(2) 保護者との連携の深まり

「震災後の子どもたちの生活がどうなるのかが心配でしたが、運動会や音楽会でがんばる姿を見て感動するとともに安心しました。傷ついた熊本城をバックに素敵な運動会ができて感無量でした。失くしてしまったものと得たものと、そうやって日々がつながっているのだと感じました。」という感想からは、震災にも負けずに生き生きとした態度で活動する子どもの姿が、保護者や地域の人を元気づけたことがわかる。震災を通して地域における学校の存在がさらに重要視されてきた。我々学校職員も微力ながら復興・復旧に貢献しているという喜びを感じ取ることができた。